



校長室より



令和5年11月7日

No.15

11月3日(金)文化の日、みはま支援学校の第45回文化祭が行われました。今年のテーマは「前進全力 みんなで力を合わせて頑張ろう」でした。前向きに歩み、仲間づくりを大切にしてきた高等部3年生が考えてくれた素敵なテーマです。当日は、体育館でのステージ発表、作品展示、校内でのみはまマルシェ、学部企画(ゲーム、模擬店)等が行われました。保護者や学校関係者、卒業生等多くの方に観覧してもらい、大変盛り上がった文化祭となりました。

まず、ステージ部門では、二学部中学部から始まりました。キーボード演奏では、車内チャイム集の発表があり、旅の臨場感がたっぴり味わえるすごい技でしたね。ハンドベル演奏やトーンチャイムの演奏は、一音一音丁寧に演奏していて、ハーモニーがきれいでしたね。

次は、二学部高等部体育ダンスの3つのグループでした。オリジナルの振り付けを考え、ダイナミックな踊りを披露してくれました。メンバーのステップや手の動きがピタッとそろったときは最高にかっこよかったです。

その次は、二学部高等部音楽の合奏と合唱でした。ステージ下までいろいろな楽器が並び、ボーカロイドの人気曲「千本桜」の演奏が始まりました。音がぴったり合っていて、楽器と楽器の掛け合いも胸に響いてきました。「水平線」の合唱は、生徒の内面の葛藤など心の叫びが伝わってきて感動しました。

ステージの後半は、和歌山病院の3つの病棟とリモートでつなぎ、一学部の児童生徒たちがステージに映し出されたところからです。「ぼくらのいいところみてください2023~まつりだ ワッショイ~」が始まり、観客はスクリーンに釘付けです。病棟ごとに一人一人のキラリと輝く場面がビデオで紹介されていきました。そして、まつりムードは、全校での総踊り「うらじゃ」で大盛り上がり。みはまが一つになった瞬間でした。

ステージの最終を飾るのは、二学部軽音楽講座の軽音楽バンド「花(う)唄(た)のハジマリ」によるコンサートです。「St a R t」と「怪獣の花唄」の二曲で会場は最高潮に達しました。バンド演奏は児童生徒たちの憧れの的です。



お昼をはさんで学部企画の模擬店が展開されました。アフターコロナで、食品も解禁され、フランクフルト、揚げ物、チョコバナナなど、どの店も行列ができ一時間で完売でした。唯一、ゲームコーナーを実施したのが高等部1年。どんぐりを的に入れるゲーム。多くの人がチャレンジしていましたね。

協力して成功させた企画、今後の生活の糧にしていってほしいと思います。